

ひまわり
まな
一つ一つでいいいに学ぶ

「そんなの
知^しってらあ」
で終わらないで^お



りょうて
そ
両手を添えて
ていいいに

ましようめん
真正面に

むあ
向き合う

学びは「よく見、よく聞く」から

「学ぼう」ということがあれば、うわっ皮をなぞるだけでは学んだことになりません。どんなに簡単と思うようなことでも「学ぶ」という事がまともに実践できれば人生は味わい深くなります。実はどんなことでも「学ば」なければホンモノにならないことは当たり前のことですね。

それで「学ぶ」の大前提は「よく見、よく聞く」という極めてあたりまえの基礎的なことなのです。見てない、聞いてないで「ちっとも面白くねえ」なんてことを言っている人がいるのです。とてももったいないですね。「よく見、よく聞く」を実行していれば、そのまま「学び」に直結です。

指さし確認

よく電車の運転手さんや車掌さんがやっているのが「指さし確認」というものです。あれはミスできないので、雑にならないようにしていねいにするための事でしょね。行き詰ったらぜひやってみてください。

雑に、適当に、イイカゲンにしているのは「学ぶ」という事からすると、ものすごく損なことをしていることになりますよ。

よく知っていることでも「そんなの知ってらあ」で済まさないで、一つ一つ指で確認してみると意外な所で見落としが発見されたりすることがあります。

一晩寝かせると味わい深く

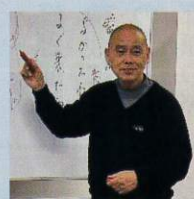
とても面白いことに、学んだことをすぐに「わかった」ということにしないで、一晩でも二晩でも半年でも一年でも大事に寝かせておくと、もっと大切な中身が味わえたりするので「学ぶ」という事はそれほど味わい深いものなのです。「ていねいに学ぶ」という事はそういうことですね。

視野を拓ける「学び」

学ぶことがなぜ必要なのかといえば、視野が広がるのです。頭がよくても視野が狭いと役立つことが少ないのです。人生を心豊かに過ごしたければ、頭なんか多少悪くても様々なことを学んで視野を広くしなければなりません。いくつになっても人生を心豊かなものにするのには、単に知識を学ぶのではなくて視野を拓けるモノでなくてはなりません。

一つことを学んだら、その周辺を探ってみるくらいいはしてみて下さい。それでやっと「学び」の意味が得られます。

和田重良（山の茂吉）



1948年 小田原市生まれ。
東京教育大学（現筑波大学）卒。
1978年、「くたかけ会」をはじめ。神奈川県丹沢山中のくたかけ生活舎において、多くの青少年たちと共同生活を実践してきたことを基盤に、これからの子どもたちの心を豊かに育むための提言を発信し続けている。
中日新聞に「ラムSYD月刊『愛』」に連載中。
「両手で生きる」の「悩める14歳」など著書多数。